

＜庁舎に求められる様々な機能等＞

◎シンボル・ランドマーク 地域の象徴(シンボル)

- ・町民の一体感を醸成する庁舎
- ・高層化(シンボル・ランドマーク)
- ・シンボルツリー(イルミネーション)
- ・町の象徴(シンボル)
- ・町のシンボリックな存在の庁舎(安心、安全な)

⇒防災

○町のシンボルとなる庁舎

雪・悪天候に強い

- ・冬場の防災(除雪・駐車場・屋根) ⇒防災
- 具体的にはロードヒーティング、無落雪屋根等?

バリアフリー

- ・お年寄が増えるので優しい親切な(バリアフリー・パブリックスペース)
- ・高齢者、障害者が利用しやすい庁舎

○ユニバーサルデザイン・バリアフリー対応の庁舎

◎エコ・省エネ

- ・再生エネルギーの利用
- ・常時使用でない部屋(WC等)の照明はオフにする
- ・環境に配慮した庁舎
- 自然エネルギーの利用(太陽光発電)
- ・ランニングコスト軽減、CO2排出減(環境・省エネ)
- ・ECO
- ・ランニングコストがあまりかからない(省エネ)
- ・高効率照明、空調
- ・外断熱、二重サッシ
- ・省エネ診断

○経済性・耐久性を考慮した庁舎

○環境共生型の庁舎

○ライフサイクルを意識した庁舎

◎町民の交流の場

- ・住民サービスが第一
- ・バリアフリーで、ロビー等には椅子・テーブル、飲物等設置
- ・コミュニケーションがとれる場に
- ・利用しやすい庁舎(気軽に)
- ・広場(交流)
- ・総合計画の基本理念実現の拠点
- ・町のことなら何でも分かる情報機能を備えた待合室

○住民が憩い・集える庁舎

○住民に親しまれる(住民に開かれた)庁舎

交通のアクセスがよい ⇒建設位置

- ・災害に強く、東西南北に居住する住民交通の利便性
- ・交通(アクセス)公共交通
- ・アクセス整備

まちづくりへのご提言 ⇒これは庁舎機能ではない

- ・資料1の10機能の他に、町の今後の成長を支援する機能が必要
- ・人口減少社会対応
- ・職員と住民の協働
- ・住民機能 旧百石・下田合同のまつり実施による住民一体を図る

○まちづくりの中核となる庁舎 (事務局)

- ・合併後のまちづくりの拠点として
- ・町民の融合、一体化
- ・まちづくりサポートセンター(職員と住民の協働、住民活動グループ専用室)

県産材の利用

- ・設備 青森産の木材(資材)の利用
- ⇒建築構造・コスト
- 新庁舎建設で木造建築比較的多い

低コスト設計 ⇒コスト

- ・低予算
- ・建設コストをかけない(低コスト)

◎防災

- ・防災対策 津波も考えて防災拠点機能を充実
- ・防災の拠点
- ・立地(安心・安全)
- ・防災 エネルギーの確保
- ・防災機能 モニターカメラ導入による人員の有効活用
- ・防災機能 避難所として使用
- ・防災機能を備えた庁舎、具体的にはどこまで
- ・防災機能 非常用電源、耐震構造
- ・被災時のエネルギー確保

○防災拠点となる(安全・安心な)庁舎

中心地 ⇒建設位置

- ・ジャスコに支店を設ける。本庁舎とオンラインで結ぶ
- ・集積(商業・業務)

貸し館機能

- ・産業の創出機能 空き室を創業支援へ(イノベーション・オフィス)八戸ポータルミュージアムはっち4F
- ・産業の創出 空き室利用

○ライフサイクルを意識した庁舎 施設としての有効活用

空室の有効利用

- ・人口減少社会に対応する機能
- ・フロアパーティション 諸室の転用
- ・職員と住民の共同スペース(※長野県栄村等)
- ・シンプル 諸室の転用

※長野県栄村役場HPより、庁舎には「村民グループ・クラブ専用室」がある平成16年10月、完成に至りました。新庁舎は堆雪型鉄筋構造ですが、内装などに木材等をふんだんに取り入れ、村民のみなさんをはじめ、来庁の方々を温かく迎える造りになっています。村民の活動拠点として、また地域住民の生命と財産を守る重要な装として期待が寄せられています。

託児サービス

- ・託児コーナー設置 ⇒No.1「窓口」のグループ
- 利便性に配慮した庁舎 ○誰もが利用しやすい庁舎